



## コンポンチャム州病院「ハイリスク新生児フォローアップ外来」特集

2016年12月、カウンターパート8名を対象に、本プロジェクトでは初となる本邦研修(約2週間)「新生児ケアと病院管理」を実施しました。この研修の成果として「“ハイリスク新生児フォローアップ外来”をコンポンチャム州病院で開始すること」を活動計画に挙げたのが、同州病院新生児室の**ゴウン・ワタナック**医師です。ワタナック医師は帰国後、日本での学びを活かし、ハイリスク新生児フォローアップ外来を2017年1月に立ち上げました。今号では、その活動についてご紹介します。

### ハイリスク新生児フォローアップ外来とは？

※コンポンチャム州病院で行われている内容です。

- 早産や低体重で生まれた児を対象に、その後の発育・発達を注意深くモニタリングするための外来診察を計3回（①新生児室退院後6週間後、②1回目診察から8週間後、③2回目診察から10週間後）行っています。
- 1日平均3～4組の母子がフォローアップ外来に来院します。
- 診察内容は州病院新生児室医師が作成したチェックリストを用いて体重測定、身長測定、発達発育調査をしています。もし発達発育に問題がある場合はフォローアップ時にカルメット病院、アンコール小児病院（シムリアップ）などに紹介するようにしています。

### Dr. ワタナックに聞きました！



#### Q1. フォローアップ外来を始めてからこれまでどのような成果がありましたか？

A1. 未熟児以外でも、様々な疾病を抱える新生児が入院し、医師や看護師が適切に対応できない事例も増えているのが現状です。コンポンチャム州病院でそういった病児への適切なケアができるように、新生児室スタッフが学ぶ必要があるという認識が高まったことは大きな変化だと思います。事実、新生児室チーム内でどう病的新生児を管理すべきかについての検討会を実施し、ケアの質を改善する取り組みを始めたことは大きな成果だと思います。

#### Q2. フォローアップ外来は病的新生児のご家族にも何か変化をもたらしたでしょうか？

A2. 全ての家族ではないですが、両親・家族がフォローアップの重要性を少しずつ理解するようになってきていると感じています。しかし、フォローアップ外来に予約を入れても様々な理由で病院に戻ってこない患者家族もまだまだ沢山おり、対象患者家族全体の40%がそれに当たります。これからももっと啓発・周知徹底を進めていきたいです。

#### Q3. 現在行われている新生児フォローアップ外来において今何が課題だと感じていますか？

A3. 一番の課題は、やはり先にも述べたように、両親の教育レベルが十分ではなく、どれだけ説明してもフォローアップの重要性を理解してもらえず、自己判断で自宅で病的新生児の経過を見ていることだと思います。できる限り何度も健康教育をしてその重要性を理解してもらえよう更に努力が必要です。また、フォローアップの機材と新生児室スタッフの不足です。例えば、瞳孔を確認する時のペンライトがないため、個人のスマートフォンのライトを使っていたり、舌圧子もない中で適切な診断が難しいことがあります。スタッフ不足は新生児室に限らず州病院の慢性的な課題ですが、IINeoCプロジェクトが2018年1月に実施した第2回本邦研修に派遣された当新生児室の看護師を帰国後はフォローアップ外来要員として増員する予定です。

#### Q4. 新生児フォローアップ外来の質を上げるため、今後何を改善していきたいですか？

A4. まず、フォローアップ対象児を適切に把握するため、データ入力システムを完備したいです。データ入力用のPCは州病院独自予算で購入します。今後は、フォローアップ外来受診の有無を管理し、必要時電話などの方法で再周知するようにしていきたいです。また、健康教育を強化し、フォローアップ外来の意義を家族により周知したいです。

## ハイリスク新生児フォローアップ外来の様子



## ハイリスク新生児フォローアップ外来の課題

昨年3か月間当プロジェクトでインターンとして活動していた鈴木絢子医師（ニューズレター17号参照）が、コンボンチャム州病院新生児室スタッフや日本人専門家、プロジェクト現地スタッフと協力して、フォローアップ外来の現状調査を行いました。調査結果は2018年1月に関係者にフィードバックされました。

### 調査概要

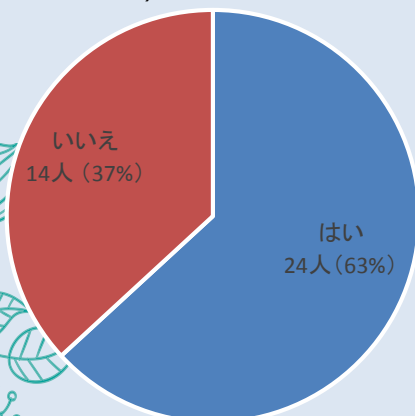
2017年5月以降に新生児室に入院した児の家族で、フォローアップ外来に受診予定であったが受診しなかった167人中97人（58%。診療録に電話番号が記録されていない場合があり全員に電話がでしなかった）に対して、フォローアップ外来への認知度や、受診しなかった理由などを電話インタビューしました。（※97人中、実際にインタビューできたのは41人（42%）である。）

## 見えてきた課題

### ① 更なる認知度の向上が必要である

Q：「新生児室退院後のフォローアップ外来について、また受診日を知っていますか？」

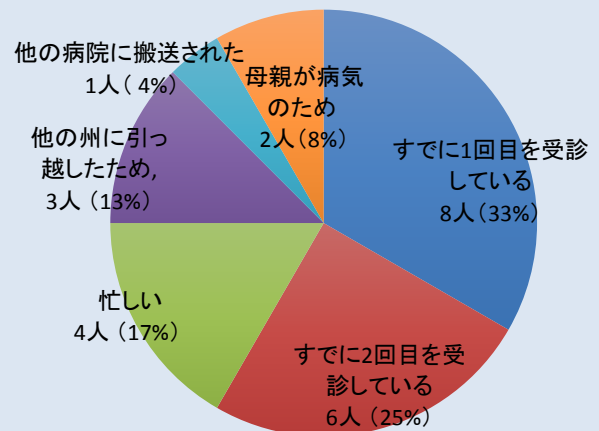
※41人中児が退院後に死亡したと答えた3人の家族は除外、結果38人が対象



約4割もの対象家族が、フォローアップ外来や受信日を知らなかったと答えており、家族への周知・リマインドの強化が必要である。

### ② 継続受診の動機付けが必要である。

Q：「（左の質問で外来、受診日を知っていると答えた24人を対象に）新生児室退院後のフォローアップ外来を受診予定日に受診しなかったのはなぜですか？」



計3回受診することになっているが、1回目、2回目以降に受診が途絶えている家族が半数以上いる。継続受診へ動機づけが必要である。